

なぜ
アヤトラ・サイイド・モ
ジュタバ・ホセイニ・
ハメネイ
こそが、最高
指導者に相応しいか?

ISSN : 1019 - 0775

ECHO of Islam

第295号 | 2026年4月

イマーム・フサイン の末裔



編集部 4

「ウンマ・イマーム制」のモデル：イスラム革命の成功の要因 6

イマーム・フサイン（AS）の子孫 8

ジハードの現場にて 12

天とのつながり 14

イジュティハドの道において 16

天の人々と共に 20

質素な暮らしと謙虚さ 23

勇気 25

匿名性の物語 26

同国の主要な課題に対する深い理解 28

イマーム・アヤトッラーの解釈学および倫理学に関する教え
サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ 32

軍事問題への精通 36

政治的・経済的依存からの脱却 37

指導者の物語 38

最高位のアヤトラから得た承認と支持
および宗教学者たちからの承認と支持 46

継続の根拠なぜアヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイなのか
が最高指導者としての論理的な選択である理由 52

新最高指導者のリーダーシップ・プロフィール、
アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ 56

ECHO of Islam

第295号｜2026年4月



代表取締役：

マフディ・ファヤジ

編集長：

モフセン・ショジャカニ博士

執行役員兼広報担当：

マリアム・ハムゼルー

デザイナー：

オミッド・ベフザディ

広告担当：

ITF誌、イラン・イスラム共和国テヘラン

電話：+9821-88934302

+9821-88934303

FAX：+9821-88902725

ウェブサイト：www.alhodapub.com

Eメール： alhodapub@gmail.com

社説



イマーム・フサイン「もしムハンマドの教えが私の殺害なしには正されないなら、さあ剣よ、私を斬り殺せ！」

著者：マフディ・ファイ

「もしムハンマドの宗教が、私の殉教によってのみ堅固に保たれるのであれば、おお剣よ、私を斬りなさい。」イマーム・フサイン（AS）

37年間にわたり指導者の責務を果たし、イマーム・フサイン（AS）の道を歩んだ後、大アヤトラ・殉教者サイイド・アリー・ハメネイは、2026年2月28日、当時の暴君たちと傲慢な権力者たちによって殉教した。

彼の殉教は、イラン国民の蜂起を招き、世界を食い尽くそうとするアメリカ合衆国と血に飢えたイスラエルの本質について、世界に警鐘を鳴らすこととなった。

この侵攻は、勇敢なイラン国民に対する40日間にわたる戦争の始まりでした。

イラン・イスラム革命の最高指導者が殉教してから8日後、米国およびシオニスト政権による戦争の強要とイランへの爆撃が続く状況下で、イラン国民によって選出された議員で構成される「専門家会議」は、アヤトラ・サイイド・モジュタバー・ホセイニー・ハーメネイー師をイスラム革命の新たな最高指導者として選出し、発表しました。



イラン・イスラム共和国憲法に基づき、他の数名の候補者の中から選出・発表されたのである。アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、殉教した指導者の学識豊かな息子ではあるが、この神から授かった才能と民衆に愛される人物は、世襲という見方を考慮することなく、法的手続きと宗教的民主主義の原則に基づき、第3代ヴァリー・エ・ファキーフ（法学者指導者）および「時のイマーム」（アッラーがその再臨を早め給わんことを）の代表者として選定・発表された。

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、公正かつ敬虔なムジュタヒドであり、、間違いなく、国内の専門家やイラン国民と協議しながら、イスラム革命とイラン・イスラム共和国を率いていくことでしょう。

彼の指導の始まりは、アメリカおよびシオニスト政権によって強要された戦争と、その残虐行為に対するイラン国民の偉大な勝利を伴っていた。

本特集号の目的は、この偉大な人物の人柄、能力、そして生き方について、読者に必要な情報を提供することにあります。



「ウンマ・イマーム制」モデル：イスラム革命の成功の要因



ホジャット・アル・イスラム マフディ・イマニプール博士による

現代の激動の時代において、イランのイスラム革命の成功と「新しいイスラム文明」への前進における最も重要な要因は、深遠な「ウンマ・イマーム制」の結びつきと、イスラム民主主義国家モデルの頂点における「ヴェリヤト・エ・ファキーフ」の確立である。現代世界の経験が証明しているように、社会における失敗や崩壊、そして搾取の

社会における失敗や没落、搾取の大部分は、傑出した、勇敢で、導きを与える指導者の不在に根ざしていることが証明されている。

世界的な目覚めの潮流と、広範に広がる国際的な反シオニズム運動を阻止するため、世界の植民地主義的・搾取的な勢力は2026年2月28日、重大な犯罪に手を染め、テヘランにあるイラン・イスラム共和国の最高指導者、 テヘランにある最高指導者サイイド・アリ・ハメネイの執務室を爆撃し、アメリカ政府とシオニスト政権は、イランで政権交代を引き起こし、同国を崩壊させることができるという誤った幻想のもと、彼を殉教させた。

しかし、数千年にわたる文明と、アラヴィー、フサイニー、マフダヴィーの文化および教えに依拠して、偉大なるイラン国民はこの強要された災難から不朽の叙事詩を創り上げた。さらに、革新的な動きと意識的な蜂起を通じて、この国民は西アジア地域を掌握し、イラン国内においては敵の陰謀を、団結、抵抗、そして防衛的攻撃を強化する要因へと転換させた。

世界の驚きをよそに、極めて困難な治安状況、テロ、そして戦争の下で、殉教した最高指導者の後継者を選出する手続きが行われ、専門家会議はアヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ（神のご加護がありますように）をイスラム革命の新たな指導者として選定し、発表した。 卓越したイスラム法学者であり、学識者でもあるこの偉大な人物の任命は、殉教された指導者を殺害した者たちの心臓を貫く一撃であり、イラン国民および世界の自由な思想を持つ人々にとって、希望と名誉の源泉となった。

大衆のみならずエリート層による忠誠の誓いが、この選択を一層鼓舞するものであり、彼の成功に向け



た神の加護がさらに強まるよう祈りが捧げられている。

ECHO



イマーム・フサイン の末裔

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、西暦1969年9月8日、マシュハド市で、学問と精神性に満ちた環境の中で生まれた。 彼はイマーム・レザー（AS）の聖廟の近隣にある家で育ち、宗教的・精神的な教えに加え、パフラヴィー政権に反対する著名かつ精力的な人物の一人であった父、殉教者アヤトラ・ハメネイ（RA）の教えにも深く触れて育ちました。 実際、父の政治的・宗教的活動と、革命を支持する人々との絶え間ない交流により、彼らの家は献身と自覚に満ちた雰囲気に包まれており、その結果、思春期のサイイド・モジュタバは、抵抗、闘争、そして宗教的価値観への不屈の姿勢といった概念に親しむようになった。

__友人であり同級生であるマフディ・メシュキは__次のように語っている。「伝えられるところによると、殉教した我らの指導者の息子が生まれて数年後、アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイにはもう一人の子が生まれたが、その子は数ヶ月後に亡くなった。

数ヶ月後に亡くなった。その後、当時マシュハドで『アガ・ヌール』として知られていたある神秘主義者から、全能の神が彼に、彼と非常によく似た息子を授けてくださるという吉報が、我らが最高指導者に伝えられた。今や、殉教した指導者にとって、アヤトラ

サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ師と殉教された我らの指導者との類似性が、他の3人の子供たちよりもはるかに大きいことは、今や極めて明白である。」

家系の観点から見ると、ハメネイ家は「フサイニー・サイイド」の末裔であり、その系譜は、シーア派の第4代イマームであるイマーム・サジャード（AS）に遡る「スルタン・サイイド・モハンマド」にまでさかのぼる。 アッバース朝時代に生きたスルタン・サイイド・モハンマドは、アシュティアン、ファラーハン、タフレシュを含むイラン中部地域に移住し、そこで人々から心から歓迎された。しかし、彼はタフレシュでアッバース朝の工作員によって殉教し、アラク市のミガンに埋葬された。 その後、サイイド・モハンマドを含む彼の孫たちの一部はアゼルバイジャンへ移住し、ハメネ市に定住した。この都市の名が、この一族の姓として採用されたのである。サイイド・フサインを含むこの一族の後の世代は、ナジャフなどの神学校に通い、宗教教育を広める上で重要な役割を果たし、これを一族の伝統とした。 サイイド・モジュタバの祖父、

サイイド・ジャヴァドもまた、この家系の子孫であり、神学校での学業を追求するためにナジャフへ赴き、「イジュティハド」の資格を得た後、マシュハドに移住し、生涯をそこで過ごした。

サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、パフラヴィー王政に対する革命的な蜂起が徐々に高まっていく雰囲気の中で幼少期を過ごした。 1960年代から1970年代にかけて、とりわけモハンマド・レザー・パフラヴィーによるいわゆる「白革命」以降、宗教聖職者や宗教団体の重要な一部が体制反対派に加わり、サイイド・アリー・ハメネイもまた、この20年間にわたり、この反体制政治運動に積極的に参加した若手聖職者の一人であった。 この時代、彼らの自宅はサヴァク（SAVAK）の工作員によって繰り返し家宅捜索を受け、サイイド・アリーは数回にわたり投獄や追放を余儀なくされた。これらの出来事は、サイイド・モジュタバの生涯と記憶を、1979年のイスラム革命以前の時代と直接結びつけるものとなった。

殉教者アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイ：「苦痛や問題、困難に加え ― ―

家族は当時目撃したある奇妙な出来事 についても語ってくれました。 妻の話 によると、彼女は、無邪気さと純粋さ、そして愛と宗教的教えへの忠実さに満ちた幼い息子、サイイド・モジュタバをイ マーム・レザー（A S）の聖廟に連れて 行き、イマーム・レザー（A S）を通じ て全能の神に父親を刑務所から解放するようお願いするよう頼むと、その幼い子 も誠実に同じことをしていたという。 ある夜、サイイド・モジュタバが祖母と共にイマームの聖廟を訪れ、祖母から同じことを頼まれた際、彼は悲しげに、涙 を浮かべた目でイマーム（A S）に、父 親の解放を痛切に懇願した。その様子があまりにも切実だったため、祖母は彼を聖廟に連れてきたことを後悔し、それ以降、サイイド・モジュタバに同じことを 頼むのをやめることにした。 興味深い ことに、その二日後、自宅の電話が鳴り、私が釈放されたことを伝え、テヘランの弟の家から電話をかけていると伝えた。」





アヤトラ・サイイド・アリ・ホセイニ・ハメネイと妻との結婚生活は、当時の聖職者家族の生活様式に従って築かれていた。その生活様式では、贅沢を避け、財政の透明性を堅持し、最小限の設備で生活を営むことが極めて重要視されていた。 信頼できる伝承によれば、この一家は革命前の時代、極めて質素な生活を送っており、物質的な事柄に対する満足と無関心の精神は、。その結果、子供たちは皆、この生活様式に慣れ親しみ、それを自身の育ちの一部と捉えていた。こうして、そのような環境で育ったサイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、私生活や家庭生活においてもこのモデルに従い続けた。彼は贅沢を避け、質素な生活を貫いた。そのルーツは、彼の育ち方や両親の生活様式に求めるべきである。

アヤトラ・サイイド・モジュタバ ホセイニ・ハメネイ：*子供の頃、私は「貧しい」という言葉が嫌いでした。まあ、私は*

子供だった私は、「貧しい」とは、路上でさまよい、物乞いをして生計を立てている人のことだと考えていました。当時はまだ革命は起きておらず、私は小学校（2年生）に通っており、私たちはマシュハドにある、今もなお現存する同じ家に住んでいました。 覚えているのは、両親と兄弟二人と私が座って話していた時のことだ。家の片隅に食料品や植物油が置いてあるのが見えた時、父が「私たちが質素な生活を送っていることを誇りに思う」と言った。この言葉は私に深い感銘を与え、質素な生活に対する私の見方を変え、

。それ以来、私は

同じ生活様式を貫き続けてきました。」



ジハードの現場にて

1979年のイラン・イスラム革命の勝利により、パフラヴィー政権は崩壊し、イラン・イスラム共和国が樹立された。その後、1980年9月、一部の国際勢力や近隣諸国の支援を受けたサダム・フセイン率いる軍がイランを攻撃した。彼は

1986-1987年度の学年度にテヘランのアラヴィ校で高校課程を修了した際、彼はわずか17歳であり、父はイラン・イスラム共和国の大統領を務めていたが、サイイド・モジュタバは自発的に戦線の戦闘員に加わった。彼は「モハンマド・ラ



スールッラー」軍の「ハビーブ・イブン・マザヘル」大隊に所属し、多数の志願青年で構成される同大隊の一員として、同国の西部および北西部戦線におけるいくつかの重要な作戦に参加した。彼は、「ベイト・アル＝ムカッダス2」、「ベイト・アル＝ムカッダス3」、「ベイト・アル＝ムカッダス4」、「ヴァルファジュル10」、「メルサド」といった数々の戦闘に、後に「イスラム革命防衛隊」の最高司令官となる戦士たちと共に参戦した。

彼の戦友や一部の指揮官たちの証言によれば、サイイド・モジュタバは前線に自発的に身を置くだけでなく、困難な任務や作戦への参加にも尽力していたという。ある作戦では、彼は戦場で最前線の突破部隊に同行することを強く望み、極めて危険な地点に近づくことを決して避けてはいない。いくつかの報告によれば、戦線や「ベイト・アル・ムカッダス」や「メルサド」といった作戦への彼の積極的な参加は、多くの若い戦闘員に勇気と活力を与えた。彼らと同様に、国の最高指導者の息子たちも自発的に戦場の作戦に参加していることを知ったからだ。

殉教者ヌール・アリー・シュシュタリ少将：「最高指導者の息子たちは繰り返し前線に赴き、様々な作戦に参加しました。例えば、『ベイト・アル＝ムカッダス3」作戦の際、サイイド・モジュタバ氏と、当時のイラン・イスラム議会議長であったハシェミ・ラフサンジャニ氏の息子が作戦に参加していることに気づきました。その作戦はかなり複雑でしたが、彼らは参加を強く希望し、二人とも前線へと向かい始め、私がどれほど止めようとしても止めることはできませんでした。翌日、私が前線へ向かった際、

彼らが「カシャン」の高地、すなわち防衛拠点の頂上に陣取っていたことに気づいた。」











天界の とのつながり

強制された戦争が終わった後、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、1989年にイスラム学の中心地であるコム市へ赴き、神学校での学業を修了し、1992年初頭まで同市に滞在した。その後、彼はテヘランへ戻りランに戻り、そこで神学校での教育を続けた。学業と並行して、1995年からはアヤトラ・モジュタヘディ・イスラム研究学校で、法学やイスラムの原則に関する初級神学校課程の授業も担当した。

1999年は、サイイド・モジュタバの人生における転機となった。この年、彼は「ザフラ・ハダッド・アデルさん」と結婚し、この結婚から、モハンマド・バゲルとモハンマド・アミンという2人の息子、そしてファテメという1人の娘が生まれた。 ザフラ・ハッダド・アデルさんは、イラン・イスラム議会の元議長であり、ペルシア語・文学アカデミーの会長を務めたゴラム・アリ・ハッダド・アデル博士の三女である。彼女はアラメ・タバタバイ大学でコミュニケーション学の修士号を、イラン・イスラム共和国放送局付属カレッジでニュース管理の大学院学位を取得していた。結婚後、ザフラ・ハッダッド・アデル氏は、子供たちの養育に心を配りつつ、学校や大学での教鞭や記者としての活動など、学術的・社会的な活動にも従事した。ザフラ・ハッダッド・アデル氏は最終的に

——アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイや他の家族数名と共に——2026年2月28日、「ラマダン戦争」の初日に、殉教した。この戦争は、アメリカ合衆国とシオニスト政権が共同でイランに強いたものである。

義父のゴラム・アリ・ハッダド・アデル博士は次のように語った。「*求婚を受けた後、娘は私に承諾した旨を伝えてきた。数日後、私は最高指導者に会いに行ったところ、*

最高指導者は私にこうおっしゃいました。『あなたと奥様は二人とも大学教授であり、それゆえにかなり裕福な生活を送っている。しかし、私たちの生活はそうではない。もし私が本以外の家具をすべてまとめるとしたら、普通のピックアップトラックにやっと収まる程度だ。また、私たちの家には部屋が3つしかない。2つは家族用で、1つは当局者との会合用だ。 息子のために家を買うお金はありません。私たちは2階建ての家を借りており、その1階には長男が住んでいて、もう1階をモジュタバに譲ることができます。 ですから、娘さんに、指導者の嫁になるからといって贅沢な生活を送れると思うようなことがないように、よく話しておいてください。 私たちの生活は非常に質素ですが、あなた方は裕福な生活を送っているため、娘さんが私たちのような質素な生活に馴染むのは難しいかもしれません。また、モジタバは聖職者で

あり、コムで神学校での学業を続けていることも覚えておいてください。ですから、娘さんにこれらすべてを伝えてください。その日、私は最高指導者の言葉を娘に伝え、彼女は
そのような状況に適応し、その中で生活することに同意しました。」



イジュティハドの道

結婚後、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、神学校での学業を修了し、精神性を高めるために、家族と共に再びコム市へ移住した。 彼は神学校教育の最高レベル（「ハレージ」と呼ばれる）に参加し、アヤトラ・アフマディ・ミヤネヒ、アヤトラ・レザ・オスタディ、アヤトラ・オサティ、およびコム神学校の他のトップクラスの教師たちから教えを受けた。 また、父であるグランド・アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイをはじめ、シェイク・ジャヴァド・タブリジ、シェイク・フセイン・ヴァヒド・ホラサニ、サイイド・ムーサ・ショバイリ・ザンジャニ、 サイイド・マフムード・ハシェミ・シャフルーディ、アガ・モジュタバ・テヘラーニ、シェイク・モハンマド・モメン・コミ、シェイク・ロトフォッラー・サフィ・ゴルパヤガニ、アラメ・メスバ・ヤズディといった他のグランド・アヤトラたちのもとで法学の原理を学び、このようにして、彼は17年以上にわたり

17年以上にわたり、法学の最高レベルの研究に没頭した。

彼は1998年にコムで、「ラサエル」や「マカセブ」（法学原理の最高レベルの2科目）などの科目の個人指導を開始し、2004年まで続けた。 その後、すなわち2005年と2006年には、コム市の神学校で『マカセブ』などの最高レベルの法学科目の指導を開始し、2007年にはファイジヤ神学校（イランで最も重要な神学校）での教鞭を執り始めると同時に、法学の個人指導も継続した。 かつての教え子たちの要望を受け、2009年にはより多くの神学校生を対象に法学の授業を開始し、その1年後には「ハレージ研究」（法学原理の最高レベル）の講義が正式に開講された。

ドイツ人研究者のシュテファン・シェーファー氏は次のように述べている。*「私はイランを訪れ、ファイジヤ神学校、ダル・アル・シャファ、そしてアヤトラ・ゴルパヤガニの学校を訪ね、ある人物、サイイド*

モジュタバ氏を探していました。彼を正しく知り、理解するためには、メディアが流す情報ではなく、彼の講義に直接出席する必要があります。「ショハダ・イェ・コム通り」にあるフサイニヤで200人の神学校生が集まる会合があり、彼（サイイド・モジュタバ）は宗教と社会行政の関係について語っていました。 彼は新旧の視点、そして過去の法学者と現代の法学者の見解を融合させ、提起された疑問に対して説得力のある答えを導き出していた。彼の教授法には、コムとナジャフの神学校の教育スタイルを融合させた革新的な

傾向が見られた。彼は学生たちと深い議論を交わし、質疑応答が彼の教えの主要な部分を占めていた。さらに、学生たちと親しみやすい会話を交わし、彼らの話に注意深く耳を傾け、社会問題について自身の見解を述べていた。」



内容の提示や教授法における革新性に加え、先人の学者の見解に対する完全な理解、論理的な表現の整然さ、 科学的かつ自由な思考、倫理的価値観への忠実さ、そして謙虚さといった資質が相まって、彼の「ハレージ学」（法学原理の最高レベル）の講義は、徐々にコム神学校で最も人気のある講義の一つとなり、新型コロナウイルスの流行前には約400人がその講義を受講していた。

彼はテヘランに居住しており、コムへの通勤が容易ではなかったため、新型コロナウイルスの流行期間中はオンラインで授業が行われていたが、2023-2024学年度の初めに開かれた、パンデミック後の最初の授業には、700人以上の神学校生が参加した。その後、彼は突然、学生たちに授業の中止を告げ、講義の中止を告げ、彼らに許しを請いました。この決定は、広く驚きを呼ぶものでした。

その後、コムの神学校生や教員約1000人が、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイに対し、授業の再開を要請し、一部の学者も口頭で同様の要請を行った。しかし、かつての教え子たちとの会合で、彼はこの決定は説明のつかない精神的な問題であると語った。

その後、父である殉教者グランド・アヤトラ・ハメネイの勧めにより、サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、著書『オルワト・アル・ウォトカ』の注釈執筆に取り組み、法学上の問題に関する再執筆に注力することで学術活動を再開した。この傾向は今日に至るまで続いている。



アリー・メスバ・ヤズディ：「彼（アヤトラサイイド・モジュタバ）の法学における学術的専門性を反映する証拠としては、最高指導者が彼に『オルワト・アル・ウォトカ』の注釈書の執筆を始めるよう勧めたことが挙げられる。同書はシーア派法学の源泉となる書物であり、神学校生は、学術的な宗教問題や法学上の問題を習得するために、これを注意深く研究しなければならない。 神学校生やこの環境に精通している人々は、この書物への注釈を執筆することが、法学研究の最終段階を歩む道のりにおける最後のステップとみなされていることを知っている。また、それは様々な法学上の　諸問題に対する包括的な理解を反映している。 。というのも、『オルワト・アル＝ウォトカ』はこうした問題の相当な部分を網羅しており、それらについて注釈を加え、他の学者の見解を批判的

に検討し、自らの「イジュティハド

」に基づく見解を提示するには、そ

の

対象に対する科学的理解が不可欠だからである。」

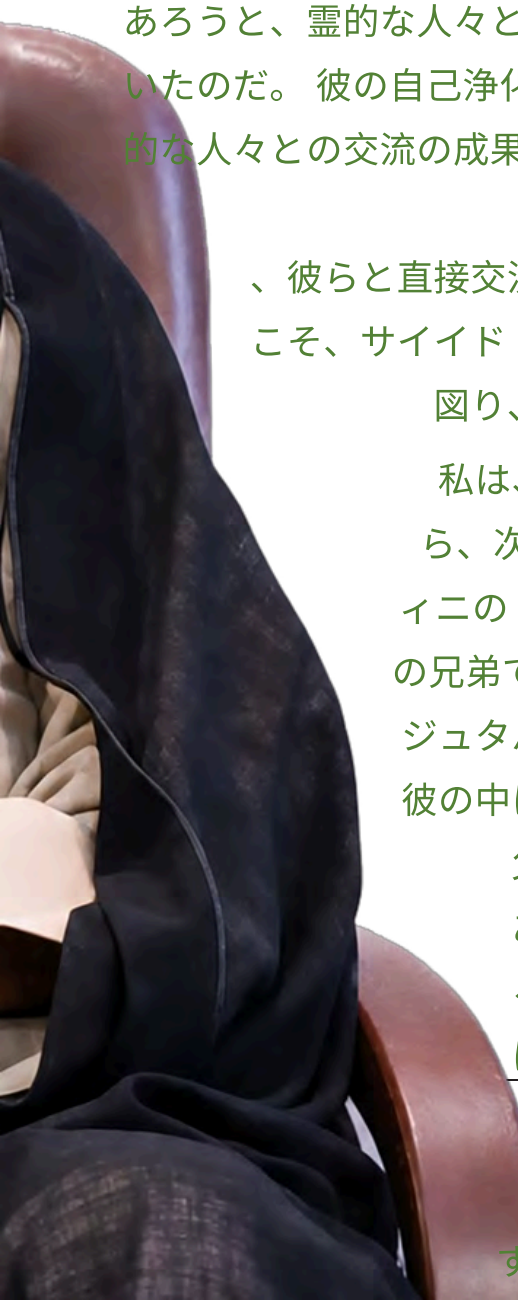
天上の人々と共に

神学修業の初期の段階から、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、アヤトラ・バハウッディーニー、アヤトラ・バハジャト、アヤトラ・ケシュミーリー、アヤトラ・ナセリー・ドラタバディー、アヤトラ・サアダトパルヴァールといったグノーシス主義の学者たちや、その他多くの多くの人物から恩恵を受け始めました。こうした交流を通じて、彼は社会に身を置きながらも、穏やかな魂と天的な気質を兼ね備えた人物へと変貌させた。彼はまた、自身の精神生活においても彼らの霊的な知見から恩恵を受け、かつ自らの関わる事柄を運営していくために、大アヤトラ（最高位の宗教指導者）たちと神秘主義の学者たちとの間の架け橋のような役割も果たしました。彼の神秘的な人物像が承認されることに関しては、まだ語られていない部分が数多くあります。



ては 彼の神秘的な
人物像を　神秘的
な人物像の承認に
関しては、

友人であり同級生であるマフディ・メシュキは次のように語っている。「最高指導者やその他の子供たちと同様、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイも、倫理的、精神的、そしてグノーシス的な問題に深い関心を抱いていました。例えば、遠く離れた都市に霊的な資質を持つ人物がいるという知らせや、どこかで特定の神秘的な問題が議論されているという知らせを受けると、彼はすぐにその場所へ赴き、彼らの考えや経験を把握し、そこから可能な限り多くのことを学ぼうとしていました。 彼の人格の重要な部分は、こうした交流の結果として形成された。つまり、聖職者としての生活の最初から、有名人であろうと無名の人物であろうと、霊的な人々との絶え間ない関係を維持し、彼らから恩恵を受けていたのだ。 彼の自己浄化という特質や、世俗的な欲望に対する自制心は、霊的な人々との交流の成果である部分が大きい。学者の著作を研究することも間違いなく効果的であると言われているが、、彼らと直接交流することの方が、より深く効果的なのだ。だからこそ、サイイド・モジュタバは常に、そうした学者たちとの交流を図り、彼らの経験から恩恵を受けようとしていたのだ。



私は、殉教した我らの指導者の長男を含む信頼できる情報源から、次のような話を聞いた。「私たちが故アヤトラ・バハウッディニの ような霊性の学者たちに会いに行くたびに、私たちは 4人の兄弟で あったにもかかわらず、彼らは父に対し、サイイド・モジュタバについて強く推薦していた。どうやら当時から、彼らは彼の中に特定の能力を反映する兆しを見出しており、それゆえに父に対し、彼にもっと注意を払うよう勧めていたようだ。ある友人はまた、最高指導者とサイイド・モジュタバがある学者と面会した際、その学者が「サイイド・モジュタバには将来明らかになるであろう特定の資質が見て取れる」と語ったと伝えています。

す。」





イスラム社会を率いるということは、単に物質的な問題の分野においてそれを導くことを意味するだけではない。世界のほとんどの政治体制において、統治者は最高の政治的権威であり、経済、政治、安全保障、そして生計の問題を組織し、守ることといった物質的な事柄に関して社会を導くことを自らの責任と考えている。

しかし、イスラームの観点からは、社会、国家、政府の形成そのものの原理は、人間を真の精神的完成へと導くための手段である。したがって、人々の物質的な生活――社会的なレベルにおいてさえ――は、全能の神に近づく道を、より容易かつ力強く歩むことを可能にするための前段階であり、手段であると見なされる。

したがって、社会を導く責任を負う者は、文化的、倫理的、精神的、感情的な様々な側面において社会を導く能力を持つために、まず第一にこの原則を熟知していなければならない。言い換えれば、統治者がそのような特性を欠いている場合、社会を単なる物質的な目標へと駆り立てるだけになってしまうが、イスラム社会の確立という目的は、単に物質的な事柄に限定されるものではない。



質素な生活と謙虚さ

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの特質の一つとして、彼に近い人々が繰り返し言及しているのは、その質素な生活と謙虚さである。 彼は、常に極めて質素な生活様式で知られていた聖職者の家庭で育った。そこでは、満足と非消費主義が倫理的な側面として根付いており、その傾向は彼の私生活、結婚生活、そして家庭生活においても、過去から現在に至るまで実践され続けている。

グランド・アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイの生活様式を間近で見てきた多くの人々の証言によれば、彼は極めて質素で贅沢を排した生活を送っており、自宅のガスコンロやテレビ

など、家の中の器具や家具は数年前の古いもので、使われていた椅子もごく普通のプラスチック製のものだった。サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイが育ったのはまさにこのような環境であり、彼自身が現在も私生活で実践している生活様式である。

社会的・政治的な地位にもかかわらず、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ師は、謙虚さと慎み深さをもって、非常に親しみやすい態度で人々と接していた。 彼の教え子の多くはこうした人柄について語っており、国内の多くの政治・文化界の著名人も、公式の会合の場で彼の謙虚さを指摘している。同様に、初めて彼に会った人々でさえ、このサイイドの聖職者との交流における忘れがたい体験を語っている。



アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの隣人：「私たちはかつてコム市のサファエイ通りにある地区に住んでいましたが、毎日、謙虚なサイイドが

彼は穏やかな笑顔を浮かべて、温かく私を迎えてくれた。当時、私たちが彼が革命の最高指導者の息子だとは知らなかった。まるで普通の市民のように、彼は普段、ラファート・モスク（サファエイ通りにある）に通い、モスクのイマームの後ろで毎日の礼拝を捧げていた。時には、モスクを後にする最後の人々のひとりになることもあった。 サファエイ通りのセパ・アレイには、新聞売場の隣で果物を売っている行商人がいた。彼は通常、ある特定の種類の果物だけを売っており、常連客が一人いた。それはサイイド・モジュタバだった。ある日、私が住んでいた地区の店に入ると、彼が買い物をしているのを見つけた。 彼が買い物を終えて店を出た後、店主が私に「あのサイイドさんを知っているか」と尋ねてきた。私が「いいえ」と答えると、店主は「彼は革命最高指導者の息子で、『某氏』の借家人なんだ」と教えてくれた。私は

「まったくの驚きを隠せなかった。」

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの謙虚さと慎み深さは、国の指導者として発表した最初のメッセージに鮮明に表れていた。その中で彼は、自らを「殉教した指導者」と同等の存在とは見なさず、同時に国民の根本的な役割を強調した。その声明の中で、彼は国の主たる力をイラン国民に帰属させ、謙虚な姿勢を示した。ノウルーズの祝辞においても、彼は人々の懸念や悩みを実感するために、タクシーに乗車して人々と交流したことを語った。

勇気

現在の世界秩序におけるイランの立場を考慮すれば、イスラム体制を率いる責任を担う人物にとって、勇気は最も重要な資質の一つでなければならない。彼の教え子や側近たちによれば、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、困難な状況に直面した際、求められる勇気と気概を備えていたという。 その勇気の例の一つとして、若き日に、イラクのバース党がイランに強いた戦争の戦場に身を投じたことが挙げられる。同様に、イスラム革命の殉教した指導者に対する度重なる脅威にもかかわらず

イスラム革命の殉教した指導者に対する度重なる脅威にもかかわらず、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、父が国の最高指導者として尽力する間、恐れを知らずに父に付き添い続け、父と母がアメリカおよびシオニスト政権による攻撃で殉教した際、彼自身も負傷した。 サイイド・モジュタバの勇敢さと勇気の極みは、イスラム・イランの敵たちが、イスラム革命の新たな指導者を暗殺しようと卑怯にも画策し続けてきた状況下で、指導者の責任を引き受けたことに見て取れる。



友人であり同級生であるマフディ・メシュキは次のように述べている。「彼は明らかに父親の真の追随者であり、その証拠として、脅威に直面しながらも決して現場を離れず、最高指導者の傍らを離れなかった

最高指導者の傍らを離れなかったことにある。彼は毎日、普通の車でテヘランとコムの間を往復し、護衛の同行や高級車での移動を拒んだ。これらすべ

てが、彼の勇気
と勇敢さの深さを物語っており、それは今後数日のうちに大いに明
らかになるだろう。



匿名性の物語

あらゆるものが権力への意志に奉仕するために定義づけられる時代において、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、無名という道を通じて霊的知識の光を求めた。敵対的なメディアによる歪んだ描写とは対照的に、彼は地位や役職を巡る争いを避け、名声を嫌うことで知られていた。

アヤトラ・サイイド・アリー・ハメネイ師（神の祝福あれ）の圧倒的な存在感ゆえに、その周囲の人々がどうしても目立たなくなってしまうという事実に加え、アヤトラ・サイイド・モジュタバー・ホセイニー・ハメネイ師の境遇や資質をめぐる「無名性」は、彼自身が自ら選んだものでもあった。

友人であるモジュタバ・メスバ・ヤズディ氏は*次のように語っている。「彼は群衆の中に溶け込もうとしたり、後方の席に人々の間に座ったりしていました。閣下［アヤトラ・アリ・ハメネイ］が主催する集会において、*

彼の子供たちを目にしたことが何度あっただろうか？集会で彼らがどこに座っているのを見たことがあるだろうか？例えば、彼らが椅子を置いて彼の隣に座っているのを見たことがあるだろうか？彼らは、要人が座る最前列にさえ座らなかったのだ。人々は、指導者の愛する子供たちの顔を思い浮かべることさえできません。今でも、多くの人々にモジュタバ氏やモスタファ氏、メイサム氏、マソウド氏の名前を挙げても、彼らがどのような顔立ちなのか知らないのです。つまり、参加が不可欠な場面でさえ、

彼らは目立たないようにし、人々の間に溶け込もうとし、自分たちが特別な地位にあるとは決して考えていなかったのです。」

イスラム社会を率いる人物として選ばれたのは、この国の最高政治権力者の息子であるにもかかわらず、友敵を問わず彼に関する情報はほとんど知られていない人物である。この状況は、何よりも彼の精神的な姿勢、名声を求めない姿勢、そして世俗的な見栄を顧みない姿勢を如実に物語っている。もし彼が望んでいれば、あるいは障害が生じなければ、広く認知され、国民的な名声を得る機会は容易に得られたはずであることは明らかだ。しかし、目立つことを避け、責任に専念するという彼の意識的な選択が、この結果をもたらしたのである。

専門家評議会のメンバー、マジド・タルカビ氏は次のように述べている。*「アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ師は、*

専門家評議会の代表団が

自宅を離れようとしませんでした。アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ師は、いかなる形でも指導者の候補と見なされないようあらゆる努力を払い、

指導者の候補と見なされないようあらゆる努力を尽くし、専門家会議からその任務が委任された際に初めてこの責任を受け入れたのである。」



国の主要な問題に対する深い理解

アヤトラ・サイイド・アリー・ハメネイが、自身の子供たちを政府の高位職に就かせないことについて極めて慎重であったこと、またアヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイが匿名性を重んじる姿勢をとっていたことを踏まえると、サイイド・アリー・ハメネイの存命中に、彼が大臣や大統領、その他の高い行政職といった公的職責を担っていたとは考えにくい。 とはいえ、父の信頼する顧問であり、体制にとって有能な右腕として、彼は様々な分野で役割を果たしてきた。軍司令部との継続的な協議、、抵抗勢力との効果的な連携、戦略的課題の追求、マクロ政策を明確にするための専門家との専門会議の開催、優秀な人材の発掘と支援、科学センターの強化、産業活動の支援や知識基盤型企業のエコシステム構築、さらには一部の科学機関や神学校への指導などが、その活動の一例である。 さらに、10万人以上の困窮者を支援する大規模な組織を運営したことは、彼の実績に社会的かつ大衆的な側面を加えています。

学生のモガダム・シャヒダニ氏は次のように述べています。「彼は芸術やメディアの分野でも専門家です。父親と同様に、これらの分野に精通しています。文化的な課題やメディアの手段について完全に精通しており、単なる知識にとどまらず、深い洞察力を持っています。これは、おそらく誰もが驚く分野の一つでしょう。彼は様々な分野の専門家と数多くの会合を持ち、様々なエリート層とも面会してきました。」

これらの責任の総体は、広範かつ多面的な経験の全体像を示しており、それはマクロ政策の策定やガバナンスにおける問題解決の領域だけでなく、執行管理や事務のフォローアップの分野においても顕著に表れている。彼が国の行政事務を監督し、様々な時期に体制の上級幹部と緊密な関係を築き、数多くの実務会議を開催してきたことは、貴重な経験と理解という資産をもたらした。 この経験は、多様な知識分野における広範な研究や、エリート層との継続的な会合によって補完され、経済の安定や生活必需品の価格統制から、手頃な価格の近代的な住宅の開発、農業・畜産業の変革、そして主要な知識基盤型プロジェクトの推進に至るまで、様々なガバナンス上の課題において根本的な解決策の達成につながった。



アリ・メスバ・ヤズディ氏：「セイニ・ハメネイ師は、過去20～30年にわたり、最高指導者から委任された重要な任務を遂行してきました。これには、調整に関する問題や――

「政府の各部門間の調整、革命勢力の組織化、抵抗戦線に関連する事項、さらには国の主要な科学・戦略プロジェクトに至るまで。もちろん、これらすべては匿名というベールの下で進められてきた。それは、これらの任務が彼に不都合や障害をもたらさないようにするためであり、また、アヤトラ・サ

イイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ自身が表舞台に立つことを好まなかったためでもある。」



神の御加護により、
ハメネイは若返った


若きハメネイ、
時のイマームを体現する

イマーム・アヤトッラー・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの聖典

解釈と倫理的教え

礼拝における誠実さと感謝の真髄

心の中で静かに祈ることは、異端を含まない限り、極めて重要です。例えば、ある宗派の人々が「نعبد اياک」(「我らはあなたのみを崇拝します」)と唱えていても、その心と魂の中には別の主がいる場合があるでしょう。これは間違いなく逸脱の一形態です。言葉と行動をもって全能の神に感謝することは、神の祝福を安定させる。私たちは、聖句や預言者の伝承の一つひとつに対して感謝すべきである。



アール・アル・バイトによる導きの恩寵

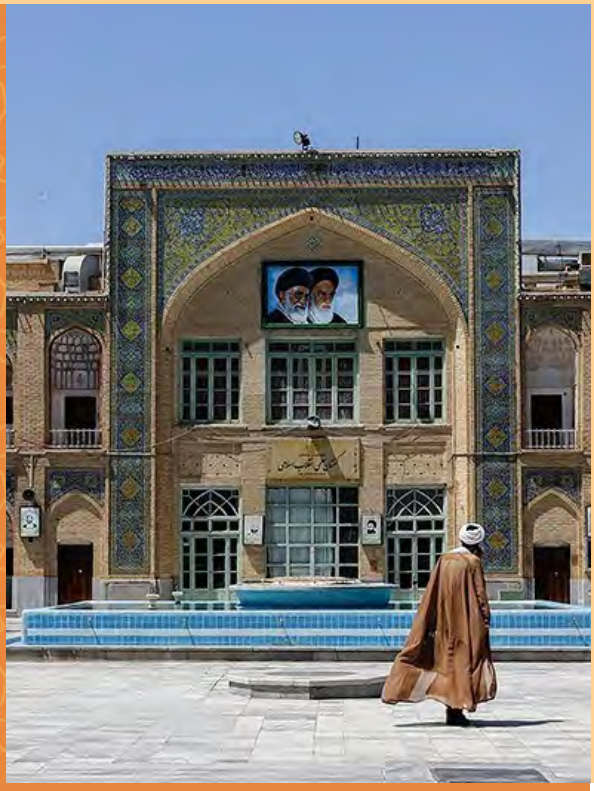
至高の神の恩恵とは、無謬者たちの存在とその光であり、それは『ジヤラート・エ・ジャマー・カビーラ』にも記されている。全能の神は、彼らを任命するという恩寵を私たちに授けてくださった。私たちは、十四人の無謬者（彼らに平安あれ）のためにあらゆることを行わなければならない。例えば、ある日はイマーム・カズィーム（**AS**）のために、自らの責務を果たすのだ。このイマームによるハディースには特定の指示が伝えられており、私たちは日常生活においてその一つを遵守しなければならない。他の無謬者たちによる指示についても同様である。



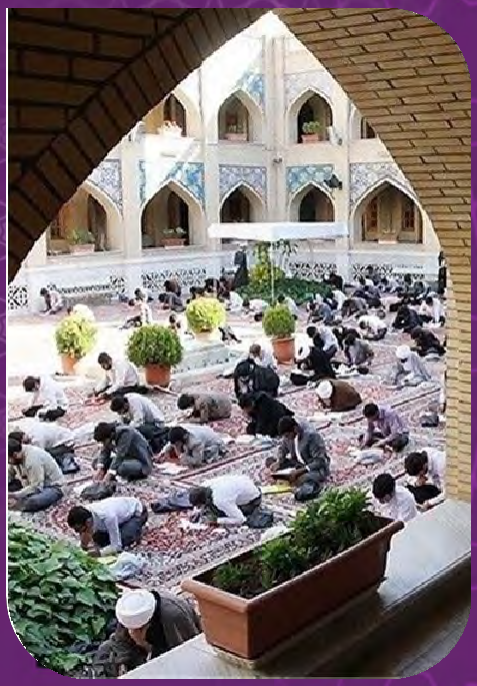
心を込めて聖クルアーンを朗読すること

私たちの魂に影響を与える特定の要素があります：1- 聖句や祈願の言葉や句の意味。
2- それらを朗読する際の身体的な姿勢。それは、絶対的な謙虚さの状態であるべきです。
3- 心に湧き上がるべき深い感情や心情。

聖クルアーンを朗読する際は、感情を込めて読むよう努めるべきです。全能の神の怒りを反映した節を朗読する際には、心を込めて臨むべきです。（神の慈悲への）信頼、熱意、希望といった概念は、そうした感情の一部です。誰かがロスタムとソフラブの物語を声に出して読み上げると、隣にいる人が涙を流し始めることがあります。このように動機付けや感情を喚起する傾向は、霊性の道を歩む上で効果をもたらします。これが、天国や地獄に関する節を朗読する際には立ちながら行うことが、伝承において推奨されている理由です。



例えば、私たちが「ヴェリ――ان کید الشیطان مان ضعیفا」という節（サタンの策略は弱い）を朗読する際は、サタンを弱く見なし、軽んじるべきである。アフラシヤブを嫌う人々もいる。なぜか？　彼がロスタムに敵対したからだ。しかし、その同じ人々が『アード族』について読むときは、まるで天気予報を聞いているかのようだ。これは欠点である。我々は彼らに対して憎悪を抱くべきであり、少なくとも「神が彼らを呪われますように」と言うべきである。



実践における不信仰：人生の舵を世俗的な事柄へと逸らすこと

不信仰の指導者たちは、必ずしも偶像崇拝という不信仰へと誘うわけではなく、時には他の手段を通じて実践的な不信仰を助長することもあります。例えば、彼らはムスリムたちの心や注意を金銭や物質主義へと向けさせようと試み、他の何よりもこの手口を用いることを好みます。つまり、人々が人生の舵を世俗的な事柄へと向けるよう、彼らは計画を立て、宣伝しているのです。

心からの感謝こそが最高のズィクル（祈り）である

「رَبِّ أَوْزِعْنِي أَنْ أَشْكُرَ نِعْمَتَكَ الَّتِي أَنْعَمْتَ عَلَيَّ وَعَلَىٰ وَالِدَيَّ」

「わが主よ！　あなたが私と私の両親に授けてくださった御恵みに感謝できるよう、私に啓示をお与えください……」（アル・ナムル章、19節）感謝とは、自分の欠点を補うことではありません。むしろ、神の御恵みを引き寄せる道なのです。 人は毎日、神からの一つひとつの恵みを思い出し、それらに対して神に感謝しなければなりません。そして、それが言葉と心の両方で誠実に行われれば、大きな効果をもたらすでしょう。私は、感謝の段階の一つとして、私たちがこの世に生まれてきたこと、そして両親に育てられたことそのものに感謝することにあると信じています。





神聖なクルアーンの最も特別なスーラ、アル・ハムド――神の啓典の中で最も特別なスーラ

ある証拠によれば、吉兆のスーラ『アル＝ハムド』は神の啓典の中で最も特別なスーラであり、その最初の節もまた、すべての節の中で最も特別なものだとされています。 クルアーンのすべての節は、神の啓示である以上、どれも特別なものですが、中でも「بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ」（アッラーの御名において、至仁至慈なる御方）という節は、全能の神の最も崇高な御名に最も近い御名を含んでいると言われています。 いくつかの伝承によれば、この節が全能の神の崇高な御名に近づく度合いは、目の黒目と白目の近さに例えられるとされています。 また、土曜日の祈願文においても、アッラーという御名が神の御名の中で最も優れたものであると記されています。したがって、「بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ」という節には、全能の神の最も崇高な御名が込められているのです。



モジュタバ・メスバ・ヤズディ：安全保障および軍事戦略の軍事問題への精通

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの軍事分野における見識と実地経験は、その人格と指導スタイルの顕著な要素と見なされている。 イラン・イラク戦争の戦場やイスラム革命防衛隊（IRGC）の戦闘員たちと共に戦った経験を経て、彼はイランの軍事指揮官たちと継続的かつ緊密な関係を維持し、同国の防衛体制や戦場の複雑さについて、深く、客観的かつ多角的な理解を得てきました。 多くのIRGC上級指揮官たちとの思想的な一致と緊密なつながりは、共通の戦略的理解の強化につながっており、これは重要な安全保障上の意思決定において役割を果たしている。 イラン・イスラム共和国に対する世界大国からの 脅威や絶え間ない圧力が続く中、軍事分野の詳細および全体像をこのように熟知していることは、イスラム国家であるイランおよび同地域の安全保障と国益を守る上で、的確かつ抑止力があり、先見性のあるアプローチを採用するための道を開くことになるだろう。

航空宇宙およびミサイル産業において、神に感謝してやまないが、我々は優位に立っている。この進展は 約 *２０*～ *３０*年前に始まり、安 全保障および軍事問題を自ら熟知していた最高指導者の指導力と英知によって導 かれてきた。 アヤトラ・サ イイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイもまた、長年にわたり、これらの事柄や拠点について深く精通し、関わりを持ってきました 。 軍事問題、国際舞台、抵 抗勢力、殉教者ハジ・カセム・スレイマニ将軍、そしてサイイド・ハッサン・ナスラッラー（神のご加護がありますように）との間でも、彼は交流を深め、祖国の作戦計画や軍事プログラムを綿密に注視しておられました。この深い理解に加え、彼が法学者として築き上げてきた学問的・法学的な領域もあります。



政治的・財政的 依存からの距離

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、権力や富の中心から稀に見るほどの独立性を保っている。この特質は、殉教した父の教育方針に根ざしている。父は、子供たちが何らかの依存関係に陥らないよう、常に経済活動への関与を控えるよう諭していた。そのような依存関係は、宗教的な配慮に加え、期待を生み出し、独立した判断を損なう恐れがある。対照的に、富の中心や政治的潮流との関わりを避けてきたことで、彼は独立した、誰にも借りのない立場を築いてきた。この立場こそが、外部の考慮事項に左右されない公正な決定を下す能力を強めているのである。

モハンマド・ハカニ：*「アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ハメネイ師は、金銭面において非常に慎重かつ厳格でした。会議で昼食が提供された場合、例外なく自らその費用を事務所に支払っていました。彼は貧しい人々を深く気遣っていた。その行為は、見せかけやパフォーマンスもなく、騒ぎを起こすこともなく行われていた。私が勤務していたテヘランの貧困地域「ダルヴァゼ・ガー」では、しばらくして彼が自ら関与するようになり、妻を派遣して状況を把握させ、その地域の状況を深く案じていた。また、この目的のために使われた資金は、最高指導者の許可を得て支出されていた。 私が記憶しているところでは、その地域の貧しい人々に配分しようとしていた資金について、金額を決定した後、彼はまず指導者の許可を得てから進めるべきだと明言しました。指導者への献身は*

指導者への献身は、とりわけ財政問題において極めて真剣なものであり、指導者の許可なしに財政問題に介入することは決してありませんでした。」

指導体制 解説

イラン・イスラム共和国において、前指導者の死去または殉教後の新指導者の任命は、憲法に規定された特定の仕組みに従って行われる。このプロセスの中心となるのは「指導者選定専門家会議」であり、同会議は指導者の候補者の特定、審査、および選定を担当している。

死亡、殉教、あるいは弾劾により指導者の地位が空席となると、直ちに国は移行期に入る。

この移行期間の開始と同時に、国民によって8年の任期で選出された専門家会議が速やかに招集される。この会議は法学者やムジュタヒドで構成されており、指導者の資格を有する人物を特定・評価するための委員会もあらかじめ設置されている。したがって、審査プロセスは通常、職位が空席となった時期に限定されるものではなく、継続的かつ恒常的に行われている。

専門家評議会のメンバーは、会合において、指導者の資格を有する個人を審査する。これらの資格は憲法に明記されており、法学の専門知識（宗教的裁定を導き出す能力）、正義、敬虔さ、政治的・社会的洞察力、慎重さ、勇気、そしてマクロレベルで国を統治する能力などが含まれる。さらに、複数の適格な人物が複数見つかった場合、より深い法学知識や、国政を運営するためのより優れた能力といった基準が、意思決定プロセスにおいて決定的な要素となる。

審議と検討を経て、専門家会議は正式に投票を行う。指導者選出会議が正式に行われるためには、専門家会議の構成員の少なくとも3分の2が出席していなければならない。指導者の選出は、専門家会議のメンバーによる直接投票によって行われる。指導者となる人物は、選出されるために、出席者の過半数を超える絶対過半数の票を獲得しなければならない。

2026年2月28日、米国・シオニスト勢力による残忍な攻撃により、イスラム革命の指導者であるアヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイが殉教したことを受け、イスラム国家は深い悲しみに包まれた。イラン国民が模範的な不屈の精神と団結をもって、故指導者の記憶と歩みを偲ぶ中、専門家評議会は可能な限り最短の期間で招集された。 イスラム体制の状況と最善の利益を検討した結果、2026年3月8日――ラマダーン月19日の夜であり、カドル（運命）の夜にあたる日――に、同評議会は過半数の賛成票により、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイをイラン・イスラム共和国の新指導者に選出した。



モハンマド・ハカニ：「アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ハメネイ師は、財政面において極めて慎重かつ緻密でした。会議で昼食が提供される場合、彼は例外なく自らその費用を事務局に支払っていました。彼は貧しい人々を深く気遣っていたが、その行為は見せかけや誇示もなく、騒ぎを起こすこともなかった。私が勤務していたテヘランのダルヴァゼ・ガーという貧困地域では、しばらくして彼が自ら関与するようになり、妻を派遣して状況を確認させるほど、その地域の状況を懸念していた。また、この活動に費やされた資金は、最高指導者の許可を得て支出されていた。 私が記憶しているところでは、その地域の貧しい人々に配分しようとしていた資金について、金額を決定した後、彼は実行に移す前にまず指導者の許可を得なければならないと明言していた。

特に財政面における指導者への献身は極めて真剣なものであり、指導者の許可なしに財政問題に介入することは決してありませんでした。」





以下は、イラン・イスラム共和国の第3代最高指導者の選定および発表のプロセスについて、専門家評議会の理事であるアヤトラ・マフムード・ラジャビ氏へのインタビューである。

Q：新指導者の任命プロセスは、グランド・アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイ師の殉教の報が伝えられたその初日から始まりましたが、専門家評議会が新指導者を特定し発表するまでには数日かかりました。そこで疑問として浮かぶのは、なぜこのプロセスにかなり長い時間がかかったのか、そしてその期間に何が起きたのかということです。

A: 新指導者の任命に時間がかかったのには、いくつかの要因があります。第一の要因は、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの場合とは異なり、アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイが最高指導者に任命された当時、彼はイスラム革命の前後を問わず様々な分野で広く知られた人物であり、特に国家大統領として、さまざまな要職を歴任していたことである。したがって、専門家評議会は彼の人物像や資質を熟知しており、それらを踏まえた上で、革命と国家の指導責任を担うにふさわしい人物は他にいないと判断した。あらゆる証拠が、彼がこの地位に最も適任であることを示していたのである。

もう一つの要因は、当時の状況が、任命会議を直ちに開催することに何らの障害も問題もなかったという点であった。さらに、このために招集された会議では、





故イマーム・ホメイニー（RA）が、革命の指導者としてのアヤトラ・サイイド・アリー・ハメネイの適性について抱いていた見解を示す特定の証拠が提示された。要するに、全能の神の御加護により、当時のあらゆる状況が、専門家会議がイマーム・ホメイニーの後継者指名に関して迅速な結論に達するための道を切り開いていたのである。

しかし今回は、状況がまったく異なっていた。一方では、潜在的な候補者に求められる資質について、包括的な知識が欠けていた。この問題は、指導者の任命条件と手続きを定めた憲法第107条および第109条に規定された委員会で検討されなければならなかった。当該委員会およびその3名からなる小委員会は、どの候補者が。また、このケースおよびこの段階におけるもう一つの難題は、特定の問題に関して一部の候補者が他の候補者よりも優れているという点であった。 例えば、ある候補者は社会政治的見解において、別の候補者は法学において、また別の候補者は経営能力において、それぞれ優れていた。したがって、誰が他者よりも比較的適格であるかという結論に達するためには、全候補者について7つの必須条件すべてを精査する必要があった。この点が、最も適格な人物の選定を、前回の指導者選定プロセスとは異なるものにした要因であった。

一方、当時の戦時下という状況も、この問題に影響を及ぼしていた。議会の理事会は臨時会議を開催しなければならず、理事会の議長は会議の目的を決定しなければならなかった。この会議において





、多くの議員が冒頭発言を行い、この問題に関する見解を表明した。したがって、会議が開かれるたびに、第107条および第109条に規定された委員会で指定された人物以外の候補者が提案されることがある。議会の議員も、その役職に適任と考える人物の氏名を提案する権利を有しており、これもまた多少の時間を要する。

現在の戦時下という状況や安全保障上の脅威のため、議会の理事会の会議は多くの困難を伴いました。

Q：あなたも理事会のメンバーでしたか？

A: はい。私たちは理事会の会議に招かれていましたが、話し合いの最中に突然、状況が「赤」であると発表され、直ちにその場を離れなければなりませんでした。 その場を離れたものの、しばらくして会議を再開することに決めました。そこで、会議の場に戻り、戦時下でも必要な会議を開催する方法について議論を続けました。しかし、再び専門家評議会の会議の計画の真っ最中に、「状況が赤」であるとの発表がありました。



このように、戦時下という状況と専門家評議会のメンバーに対する脅威のため、理事会の会議を開催することは非常に困難であった。 敵が新指導者の任命会議を阻止しようと決心していたことは明らかだった。さらに、メンバー全員が身元を隠すために警護員と共に市内の各地に分散して滞在していたため、全員と連絡を取ることが困難であり、彼らを一堂に集めるのは容易なことではなかった。

理事会が最初に決定すべきことは、会議を対面形式で行うか、あるいは別の形式で行うかということでした。既存の問題を考慮した結果、最終的に通信手段を通じて会議を行うことが決定されました。これは、治安当局が、80人以上の専門家会議のメンバーが一か所に集まる際の安全確保は困難であるとの見解を示していたためです。 その理由は、これらのメンバーが金曜礼拝の指導者、指導者の代表、その他の著名な人物などが含まれていた。そのため、必要な会議の開催に関して、我々は大きな問題に直面していた。

結局、理事会は、委員が書面で意見を提出すべきであるという結論に達した。コムにいる委員の意見は書面で受け付け、他の都市にいる委員の意見は後日受け付けることが決定された。

そこで、会員たちには、治安上の問題により会議を開催できないため、意見（投票ではなく）を書面で表明するよう求める書簡が送付された。また、この仕組みに同意する場合は署名し、さらに希望する候補者を提案するよう求められた。

Q：つまり、専門家たちは、送付された同じ書面に、推薦する候補者の名前を記入できたということですか。

A: はい。また、候補者が複数いる場合は、優先順位に従って名前を記載する必要がありました。

同書簡では、この仕組みは専門家メンバーの承認が必要であること、また会議が開催されないため、この仕組みに同意する場合は送付された書面に署名するよう求められたことが説明されていました。したがって、メンバーには、推薦する候補者および投票手続きの両方について意見が求められたのです。

Q：専門家評議会の事務局への襲撃事件はいつ発生したのですか？その時点で、そこで会議は開かれていましたか？

A: ええと、それは、会議の開催や候補者の指名について、メンバーの意見を直接ではなく書面で求めることに関する理事会が開かれていた際、他にも多くのメンバーが事務局に居合わせた時に発生しました。おそらく、その行き来の様子から、敵は会議が行われていると察知したのでしょう。 もう一つの可能性としては、彼らが3か所を爆撃することに決めていたため、事務局も標的の一つだったということです。いずれにせよ、その場にいた委員のうち3名が、事務局に直接出席できなかった委員の自宅を訪れ、書面で意見を聴取する役割を引き受けました。

Q：3名の委員からなる委員会は、理事会によってどのように選出されたのですか？

A：憲法の第107条および第109条は、専門家会議における委員会とその3名からなる小委員会について定めています。委員会の一部として定義されるこの3名からなる小委員会は、指導的役割を担うために指名された個人の資質や特性を審査する責任を負っています。専門家会議のメンバーから表明されたすべての意見を審査した後、この小委員会は、最も適任と思われる3名の個人を委員会に推薦する報告書を作成します。 もちろん、専門家会議の議員も他の候補者を推薦することができます。

投票は対面ではなく書面による方法で行われることが決定されていたため、このプロセスにはより長い時間を要した。同時に、理事会は治安当局に現状について問い合わせた。ある時点で状況が改善されたと発表された後、理事会は会議を対面形式で行うことを提案した。

Q：なぜ最終投票は、委員の書面による意見に基づいて行われたのですか？

A: それは、会議では会員同士が議論し、互いの見解に異議を唱えることができるのに対し、書面による意見交換ではそれが不可能だからです。会議は原則として対面で行うことになっていますが、現在の治安状況を考慮し、書面による方法を採用せざるを得ませんでした。



書面によるコミュニケーションを採用せざるを得なかった。

書面による提案の収集には約2日を要し、その後、対面会議の開催可能性について治安当局に再度問い合わせたところ、肯定的な回答が得られた。しかし、会議の所要時間をかなり短くせざるを得なかったため、1時間から1時間半で終了させることに決定した。

結局、最終会議は対面形式で行われたものの、参加したのはコム在住の委員のみであり、必要な定足数を確保するため、彼らには市外へ出ないよう要請された。一方、他の都市に滞在しており移動が不可能な委員は、書面による投票を送付した。それにもかかわらず、会議は必要な3分の2をわずかに上回る委員数で構成され、正式に合法的なものとなった。

Q：会議の議長は誰でしたか？

A: 専門家評議会の議長であるアヤトラ・モヴァヘディ・ケルマニ氏が出席し、演説を行った後、ホセイニ・ブーシェハリ氏に会議の進行を委ねた。その後、数名のメンバーが意見を述べ、続いて投票用紙の配布、集計、最終結果の発表という投票手続きが開始された。

なお、今回の状況は1989年の最高指導者任命時の状況とは大きく異なっており、このプロセスが長期化した主な原因は治安上の問題であった。 専門家会議の80名以上のメンバーの命が危険にさらされていたため、我々は慎重を期せざるを得なかった。もし、神のご加護を願うが、何らかの危険な事件が発生し、これらの人々が標的となった場合、次期指導者の任命は、この専門家会議の新たなメンバーが選出されるまで延期されざるを得なくなる。そのプロセスには長い時間を要し、国は最高指導者の不在状態に置かれることになる。

Q：当時の治安状況下で、意見の相違は生じましたか？当時の状況は選出プロセスに影響を与えなかったのでしょうか？

A: いいえ。その理由は、委員たちが候補者について必要な調査を行っていたからです。コム滞在中、委員たちは候補者について必要な照会を行っていました。そのため、最終会議が開かれた際、各候補者の特徴は委員たちにとってほぼ明確であり、誰が憲法に規定された条件により適合しているかを把握していました。とはいえ、その会議においても、特定の候補者に対して賛成・反対の両方の意見が、数名の委員から述べられました。





最高アヤトラや宗教学者たちからの承認と支持

専門家評議会による決定直後から、多くのグランド・アヤトラ、宗教学者、神学校のエリートたちが、同国の新最高指導者に対する断固たる支持を表明した。声明を発表し、最高指導者事務局と連絡を取りながら

満足の意を表明しつつ、マカレム・シラジ、ヌール・ハマダニ、ショバイリ・ザンジャニ、ソバニ、シスタニ各大アヤトラをはじめとする学者たちは、彼（アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ）への断固たる支持と、イスラム革命の道の継続を表明した。

グランド・アヤトラ・シスタニ事務所



イラン・イスラム共和国の殉教した最高指導者、アヤトラ・サイイド・アリー・ハメネイ（RA）を偲ぶとともに、全能の神の御加護により、その後継者が偉大なるイラン国民に奉仕し、敵の邪悪さを排除し、既存の団結と連帯を維持することに成功することを願う。

グランド・アヤトラ・ナーセル・マカレム・シラージ



この重大な局面において、専門家評議会は時宜を得た決定を下すことで、その宗教的および法的な責任を果たしました。必要な指標を精査した結果、同評議会は、アヤトッラー・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ氏をイスラム革命の第3代最高指導者として正当に選定し、発表しました。

トッラー・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ氏を、イスラム革命の第3代最高指導者として正当に特定し、発表した。

今や、愛するイラン国民およびイスラム体制の様々な支柱が、新たな指導者に忠誠を誓い、不屈の精神と団結のもと、イスラム革命の輝かしい道を歩み続けることが期待される。

革命の殉教した指導者、軍の指揮官、そして罪のない男性、女性、子供たちの殉教に対し哀悼の意を表するとともに、この正しい選出を祝福し、全能の神に対し、イスラム・イランの勝利、尊厳、そして崇高な名誉、ならびに敵の屈辱を祈る。

大アヤトラ・ヌーリ・ハマダニ



アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ閣下

アッサラーム・アライクム

イスラム革命の殉教した指導者の殉教に対し哀悼の意を表するとともに革命の殉教された指導者、イスラムの勇敢な指揮官たち、そして無防備な人々に対し、哀悼の意を表するとともに、全能の神に感謝いたします。専門家評議会が、必要なすべての条件と規則を勘案し、間違いなく「時代のイマーム」（アッラーがその再臨を早め給わんことを）の祝福のもと、 法学、勇気、敬虔さ、統治能力、経験、そして故イマーム（RA）および殉教した指導者（RA）の道と思想への深い忠誠心など、指導者としての大いなる責任を担うために必要な資質を兼ね備えた閣下を、イスラム革命の神聖な体制の指導者として選出され、それによって、再びわが国の敵たちを失望させたことに、全能の神に感謝いたします。

グランド・アヤトラ・ジャファル・ソバニ



現在の微妙な状況下において、同議会が新たな指導者を任命した取り組みは、高く評価され、承認されるべきものでした。全能の神の御加護により、任命された指導者が成功を収めることを願っています。

そして、宗教、信仰心、そして祖国に奉仕することにおいて。

ホセイン・マザヘリ大アヤトラ



専門家評議会が、現在の危険かつ微妙な状況下において、革命の殉教した指導者であるアヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイ（RA）の悲しい殉教を受けて、
その尊い殉教者の傑出した有能な後継者の一人を、ヴァリー・イェ・ファキーフおよびイラン・イスラム共和国の指導者として断固として選出したことを受け、私は全能の神に対し、彼が真理を高め、正義、倫理的価値観、そして精神的な面において、 宗教的価値観や国民的結束、社会的連帯を守り、イスラム革命の根本的な目的を強化し、イスラムとイランの敵に立ち向かい、押し付けられた戦争の邪悪な影を払拭し、傲慢な外国勢力を失望させ、「時のイマーム」（我らの魂を彼に捧げん）の国の進歩を図り、イスラム・イランの尊い国民を称え、イラン・イスラム共和国の賢明な指導を行うことにおいて、全能の神が彼に成功を授けてくださるよう祈ります。

グランド・アヤトラ・モブシャー・カシャニ



1989年、革命の最高指導者であるアヤトラ・サイイド・アリー・ハメネイ（RA）が、故イマーム・ホメイニー（RA）の後継者に任命された際、故グランド・アヤトラ・バハウッディーンは次のように述べました。「指導者の装いは
は、彼にしか似合わない。」と述べられました。現在の状況を鑑み、私は、この真理が今日も変わらず通用し、指導者の装いは、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの尊いお人柄にしか似合わないと宣言します。

殉教された革命指導者の古くからの友人、アヤトラ・サイイド・ジャファル・ショバイリ・ザンジャニ



私の古くからの友人、サイイド・アリが殉教する日を目撃することになるとは、夢にも思いませんでした。80歳になる親愛なる友人は、イマーム・アリー（AS）と同様に聖なるラマダンの月に殉教し、またイマーム・フサイン・イブン・アリー（AS）と同様に
、最も凶悪な敵、すなわち犯罪的なシオニストたちの手によって、家族と共に殉教した。これはイスラムの学者たちの中でも極めて特異な殉教の形態であり、イスラエルの完全な破壊と「時のイマーム」（アッラーがその再臨を早め給わんことを）の再臨によってのみ和らげられる、極めて痛ましい悲しみである。

イマーム・レザー（AS）の聖廟で、殉教された我らの指導者の死を悼んでいる最中、専門家会議がアヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ氏を新たな指導者として選定し、発表したというニュースを耳にし、私はある程度安堵した。 私は50年以上にわたり彼を間近で知っており、彼の深い霊性、倫理観、質素さ、知識、そして法学の造詣を熟知している。これらの傑出した資質、とりわけ彼のイジュティハード（独自解釈）、人々への愛と思いやり、そして幼少期から続く父への特別な親密さは、我らが殉教されたイマームの著作にも明記されている。

我らが殉教した指導者の後を、その生涯の結晶である人物が継いだことを、全能の神に感謝する。その人物は、イマーム・ホメイニー（RA）の革命の勝利以前に誕生していた、この体制と革命にとってかけがえのない宝である。

専門家評議会の理事であるアヤトラ・カビ



全能の神は証人であり、ご存知の通り、専門家評議会は、誠実さと全能の神の恩寵に満ちた雰囲気の中で、誠実さと全能の神の恩寵に満ちた雰囲気の中で、また「時のイマーム」（アッラーがその再臨を早め給わんことを）の祝福に依拠し、専門家の3分の2以上が出席した公式会議において、専門家会議の91パーセント以上の専門家による明確な書面投票によって、彼（アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ）をヴァリー・エ・ファキーフおよびイスラム革命の第3代指導者として選定し、発表したのである。

専門家評議会の理事であるアヤトラ・モフセン・コミ氏



殉教した指導者の子孫であり、地域および国際情勢に精通し、敬虔で献身的かつ勇敢な人物が新たな指導者として選定・発表されたことは、予想をはるかに超えるほど、イラン国内外の専門家や人々から大いに歓迎された。予想をはるかに超えるほど熱烈に歓迎された。任命から数時間後に執り行われた新指導者への忠誠宣誓式は、一方で世界の信仰深く抑圧された人々を喜ばせ、他方でアメリカ大統領を含む敵対者たちの怒りを招いた。

専門家評議会理事会のメンバーであるアヤトラ・シェイク・モフセン・アラキ氏



専門家評議会の多くのメンバーから支持されていた候補者の多くは、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ氏を、その職に最もふさわしい人物であると見なしていた。多くのメンバーは

は、彼の任命を強く支持した人物であり、傑出した神学校学者および教師の一人である。彼らの講義には多数の神学校生が参加している。彼らは法学において最も著名な教師であり、30年から40年の教育経験を持つが、その誰一人として公職、ましてや指導的地位に就こうとしたことは一度もない。

専門家評議会の姿勢は明快である。規則や規制に精通した80名以上の敬虔な法学者、政治家、社会学者たちがこの評議会の構成員であり、彼らは怠慢や妥協を許さない人々である。我々は、指導者にふさわしい人物を見極めるために長年にわたり調査と努力を重ねてきた。専門家評議会が到達した結論は、長年の努力の結晶である。

指導者としての役割を担うために必要な資質は、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ氏において最高水準で認められた。他にも、相当な能力を備えた尊厳ある有能な候補者がいたが、我々は、求められる資質と特質が彼においてより包括的に備わっているという結論に達した。

彼の尊い祖父である故アヤトラ・サイイド・ジャヴァド・ハメネイ氏や、尊い父である殉教した革命の指導者（RA）と同様に、彼は極めて敬虔で高潔な人物である。

アヤトラ・レザ・ラメザニ（専門家評議会議員、アフル・アル・バイト世界会議事務局長）：



アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの人格における「正義」という特徴について言えば、将来の世代はこの点において、彼をより深く、よりよく知るようになるだろう。個人的な知見に基づけば——彼と共に過ごした時間と経験から、私は彼が「正義」を備えていると固く信じており、この特質は極めて重要である。

彼の学識や法学的な側面に関しては、私は個人的に、彼の並外れた学術的造詣と準備の整った姿勢を目の当たりにしてきました。

政治問題の管理・監督の分野においては、私たちが交わした会話や議論に基づき、彼の視野の広さと事柄に対する洞察力は私にとって極めて明白であり、この点について何の疑念も抱いていません。

専門家評議会のメンバー、アヤトラ・アリ・モメン・コミ氏：



彼の学識の水準に関しては、私は以前から必要な調査を行っており、確信に至っていました。彼は高いレベルのイジュティハード（独立的法解釈）を有し、宗教的裁定を下す資格を備えています。したがって、私の投票は

科学的かつ個人的な確信に基づいて行われました。さらに、法学の基準や指導者の条件について深い理解を持つ、専門家評議会に出席していた法学者たちの総意が、

この選択を裏付けるものでした。

最高神学校評議会事務局長、アヤトラ・モハンマド・マフディ・シャブ・ゼンデ・ダル・ガルド：



学術的な観点から言えば、神に賛美あれ、彼がアフル・アル・バイト（彼らに平安あれ）の伝承において宗教的統治者について言及されている特質を備えていることに疑いの余地はありません。この祝福された伝承における基準は

この祝福された伝承における基準は、学者がアール・アル・バイト（彼らに平安あれ）のイスラームにおける許

「あなたの上」に。この点において、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ（神が彼の地位を高め給わんことを）が、この水準を備えていることに疑いの余地はない。

テヘラン神学校評議会議長、アヤトラ・アリ・アクバル・ラシャド：



彼が「ヴァリー・エ・ファキーフ」に選出されるという噂が流れていたごく短い期間のうちに、一部のマラジ（宗教的権威者）が事前に明確に支持を表明し、

。このエリート層や神学校による支持に加え、社会の様々な層における彼の人気もまた比類のないものである。

社会各層における彼の民衆的な支持もまた、比類のないものである。

彼は、推論の原則に精通した、誰もが認めるムジュタヒド（宗教的権威）である。 数十年にわたり彼と関わってきた者として、彼は極めて高潔で、威厳があり、気取らず、飾り気なく、形式ばらず、謙虚で、そして極めて「名声を嫌う」人物であると言わざるを得ない。その地位や身分、そしてあらゆる能力にもかかわらず、国内で要職に就くこともできたはずの人物だが、彼は過去数十年、いかなる役職も受け入れてこなかった

。

されることと許されないことについて洞察を持ち、法規定に精通していることであると述べられています。これこそが、イマームが「私は彼を統治者に任命した」と述べた基準なのです

ホジャット・アル＝イスラーム・サイイド・マフムード・マルアーシ・ナジャフィー（故アヤトッラー・サイイド・シャハブ・アル＝ディーン・マルアーシ・ナジャフィーの息子）：



私、アヤトラ・ハージ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ閣下と個人的に親交のある者は、彼を人々が従うことのできる、議論の余地のないムジュタヒドであると見なしている。彼は非常に清らかな心を持ち、聡明で、政治的センスに優れ、

何よりも、学識豊かな人物であり、この点については誰もが同意している。故父（神のご加護がありますように）と共に、私は様々な



問題解決のために開かれた様々な集まりにおいて、彼の祝福された存在が、それらの会議の柱の一つであったことを

ジャムカラン・モスク聖廟の守護者、ホジャット・アル・イスラム・オジャグネジャド氏：



専門家評議会のメンバーの圧倒的多数は、心からの確信と内なる輝きをもって、尊敬すべき父の御許で長年にわたり育てられてきた人物に投票しました。このことは、

国の明るい未来を告げるものです。

バグダッドの金曜礼拝指導者、アヤトラ・サイイド・ヤシン・ムサヴィ：



全能の神がウンマに御加護を授けられますように。神は、イスラムの法学者たちである専門家評議会の議員たちに、ムジャヒディンであるアヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ・ホラサニを

ムスリムの指導者、そして疲弊した指導者の後継者として選出する成功を授けてくださったとき、

この選挙こそが、この不当な戦争における神の勝利の始まりであると、心の底から、そして全身全霊で感じています。正義の者に続いて正義の者、ムジャヒディンに続いてムジャヒディン、そしてホセイニに続いてホセイニが、この道を歩み続けるのです。

イラクのイスラム抵抗運動の指導者の一人、ホジャット・アル・イスラム・サイイド・ハシェム・アル・ハイダリ：



「尊きアヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ師は、勇敢で、洞察力に富み、深遠な法学者であると同時に、極めて禁欲的な人物であり、真の意味で『世俗への執着を捨て去った』」という、真の意味での人物である。この正義の僕（しもべ）は、尊い父が37年間にわたりウンマの指導者およびウンマの守護者の地位に就いていたにもかかわらず、名声や称賛を求めようとは決してしなかった。彼はいかなる公的地位にも就いたことがなく、父の地位や責任を私的に利用することも一切なかった。 模範的な禁欲生活を送りながら、彼は昼夜を問わず、法学、教育、知識の追求、そして貧しい人々やイスラム体制への無私の奉仕に身を捧げ、家族の地位を微塵も利用することはなかった。



継続の正当性　なぜアヤトラ・サイイド

モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ

が

最高指導者

著者：アニル・ナレンドラ

アニル・ナレンドラ氏は、ニューデリーで発行されている『ザ・デイリー・プラタップ』、『デイリー・ヴィール・アルジュン』、および『サンドヒヤ・ヴィール・アルジュン』の編集長を務めている。

現在進行中の紛争に対し、インド国民はイラン国民に連帯の意を表している。この紛争は、多くの人々から不当であり、外部から押し付けられたものと見なされている。 インド国民の間には、アヤトラ・サイイド・ホセイニ・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの指導の下、イランが不屈の精神を示し、主権を損なうことなくこの危機を乗り越えるだろうという強い確信がある。この確信は、両国間の豊かで永続的な関係に深く根ざしている。その絆は3千年近くにわたり、言語、文化、そして歴史的記憶という共通の糸によって織りなされてきたものである。

複雑で、しばしば不透明なイランの最高政治の舞台において、後継者問題は決して単なる血筋の問題ではなかった。その核心は、国家の存続にかかわる問題なのである。 サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイが、イランを最も重大な安全保障上の課題の渦中をどのように導いてきたかは、同国の敵対勢力だけでなく、最も親密な同盟国の内部においても、称賛と驚嘆を等しく呼び起こしている。 彼のアプローチは、戦略的な忍耐と緻密な計算という稀有な組み合わせによって特徴づけられており、その一挙手一投足、対応、そして反撃のいずれもが、衝動や状況に流されたものではなく、深い熟考の産物であるかのように見える。

地域および国際的なアナリストたちの注目を特に集めているのは、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイが最高指導者の地位に就いて以来、示してきた並外れた政治的・行政的成熟度である。 イランの複雑な安全保障体制、外交政策において求められる微妙なバランス感覚、そして国内情勢の繊細な管理に対する彼の理解は、正式に任命されるはるか以前から、すでに権力の最上層に長く身を置いてきた指導者であることを示唆している。 彼の行動を綿密に研究してきた専門家やオブザーバーたちは、彼が単にこの役割のために育成されてきただけでなく、多くの重要な点において、すでにその役割を果たしていたことに疑いの余地はないと考えている。

何十年にもわたり、イデオロギー的な確信を前面に打ち出しながら、内部の亀裂を静かに管理してきた革命体制にとって、最高権力の移譲は、イスラム共和国がこれまでに直面する中で最も重大な決定の一つである。 イランが、高まる圧力と絶え間ない対外的な緊張に特徴づけられる時代を乗り切ろうとする中、サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイを次期最高指導者に据えるべきという主張は、親子の情という領域を決定的に超え、現実的な統治という冷徹な計算の域へと移行している。

批判派は、「王朝」という言葉をすぐに持ち出し、世襲的な権力移行という表向きの様相を、体制が自らの革命的原則を裏切った証拠として指摘する。表面的には妥当な指摘である。 しかし、サイイド・モジュタバの立候補を単なる縁故主義に還元してしまう人々は、より重要な事実を見落としている。すなわち、数十年という歳月をかけて、彼が静かにイラン国家権力の構造的中心へと自らを位置づけてきたという事実である。彼は単に舞台裏で待機している息子ではない。最も信頼できる情報源によれば、彼は

サイイド・モジュタバを支持する最も強力な根拠は、他のどの後継候補も主張できない点、すなわち「ベイト・エ・ラフバリ（最高指導者事務局）」に対する比類なき熟知にある。 イランの政界からは、野心的な聖職者、抜け目のない指揮官、洗練されたテクノクラートが絶えず輩出されているが、最高指導者事務局はそれ自体が独自の世界――諜報、後援、宗教的権威、戦略的調整が複雑に絡み合う迷宮のような中枢であり、その活動は主に陰で展開されている。サイイド・モジュタバは、成人してからの人生の大部分をその世界の中で過ごしてきた。

長年にわたり、父の指導体制における主要なゲートキーパー兼政策調整役として機能してきた彼は、真に代

替不可能な組織的記
憶を蓄積してきた。
彼は、

閣僚には決して届かない諜報報告書を目にしてきた。彼は、対立する権力中枢間の情報の流れを管理してきた。どのレバーがこの機構を動かすのか、またどの対立関係を解決するのではなく慎重に管理すべきなのかを、きめ細かな詳細まで理解している。これは、実務を通じて学びつつある政治的後継者の姿ではない――あらゆる実務的な意味で、すでにその職務を遂行してきた人物の姿である。

司法、情報機関、行政府をつなぐ「結合組織」としての彼の役割は、彼が正式に指導者の座に就く際の移行が、権威主義的な権力移譲において稀有な要素――すなわち、実務上の混乱を事実上伴わない制度的継続性――をもたらすことを意味する。指導者の交代が常態的に権力の空白、派閥の粛清、政策の停滞を引き起こす体制において、その特質は偶然のものではなく、決定的な要素なのである。

イランの権力継承を分析する上で、イスラム革命防衛隊（IRGC）を見落とすわけにはいかない。IRGCは単なる軍事組織ではない。それはイスラム共和国のプレトリアン兵団としての背骨であり、外国の敵対勢力や国内の挑戦者双方に対して、体制の存続を守る意志を繰り返し証明してきた勢力である。

この点において、サイイド・モジュタバの地位は、おそらく彼の最も貴重な資産である。彼と治安部隊との関係は、近年の政治的駆け引きの産物ではない。それはイラン・イラク戦争という形成期の経験に根ざしており、そこで最も過酷な状況下で忠誠の絆と共有された犠牲が築き上げられたのである。その歴史が、サイイド・モジュタバと軍事・治安体制との間に、いかなる外部の候補者も――その神学的資格や政治的才覚にかかわらず――再現することのできない程度の相互信頼を生み出してきた。

激しい市民騒乱の時期に、イスラム革命防衛隊（IRGC）とバシージの両方と連携する能力を実証したことで、彼は「危機に鍛えられた実務家」としての評判を得ている。つまり、単に秩序について理論を語るだけでなく、体制が真の圧力にさらされた際にそれを維持できる能力を証 明した人物である。 予測可能性を何よりも重視 する組織にとって、サイイド・モジュタバは軍事戦略家が「既知の要素」と呼ぶ存在である。すなわち、IRGCの言語を話し、その戦略的直感を共有し、最高指導部における新しく不慣れな関係による不確実性にIRGCをさらすことのない指導者である。

おそらく、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの継承に対する最も根強い反対意見は、宗教的正当性に関するものである。イスラム共和国の最高指導者は、シーア派聖職者体制――マルジャイーヤ――内で真の権威を掌握していなければならないが、批評家たちはかねてより、サイイド・モジュタバがそのような役割に求められる神学的地位を備えているかどうかを疑問視してきた。

――マルジャイヤー――において真の権威を掌握していなければならないが、批評家たちはかねてより、サイイド・モジュタバがそのような役割に求められる神学的な地位を備えているかどうかを疑問視してきた。

この問いには、通常与えられている以上の、より慎重な回答が求められる。長年にわたり、サイイド・モジュタバは「ダルス・エ・ハリジ」――シーア派の伝統において正式な宗教教育の最高レベルに位置づけられる、イスラム法学の高度な神学生向けカリキュラム――を指導してきた。これは儀礼的あるいは名誉的な役割ではなく、上級学者たちが忠実な弟子たちのネットワークを築き、聖職者社会内で知的権威を確立するための仕組みである。 コム神学校システムにおける彼の継続的な存在は、その役割に求められる宗教的資格を培うための、長期的かつ意図的な努力を反映している。

その結果、サイイド・モジュタバは、後継者争いに関わる他のほぼすべての人物とは一線を画す、二重の能力を身につけたのである。 彼は、アヤトッラーとなるための資質――神学校体制と対等な立場で関わるのに十分な宗教的信頼性を備えていること――と、国家権力の官僚的・安全保障的側面を数十年にわたり切り抜けてきたベテランの政治工作員としての資質とを兼ね備えている。まさにこの組み合わせこそが、イスラム共和国の宗教的・政治的権威が融合したハイブリッドな体制において、最高職に求められる資質なのである。

いかなる革命体制においても、権力の移譲は構造的な脆弱性が露呈する瞬間である。外部からの候補者は、たとえどれほど有能であっても、派閥再編という不安定化要因を背負って登場することになる。新たな同盟関係を築き、古いネットワークを解体し、そして体制全体の二大支柱である聖職者層と治安機関の間に亀裂が生じるという、常に付きまとうリスクを抱えることになるのだ。



アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイは、部外者として登場するわけではない。彼は、現在のイラン政府高官のほとんどがその地位に就いてきた期間よりも長く、イランの国家権力の中心に立ってきた人物として登場するのだ。彼が最高指導者に昇格することは、新たな始まりというよりは、彼が長きにわたり影から果たしてきた役割の正式な承認に他ならない。



安定よりもイデオロギーを優先する人々にとっては、これは不満足な結論かもしれない。 しかし、イスラム共和国の存続が何よりもその制度の一貫性と権力構造の継続性に依存していることを理解する者にとっては、この論理を否定するのは難しい。イランの指導者継承において最も重要な問いは、誰がその座にふさわしいかではなく、すでにその座に就いているのは誰か、ということである。アヤトラ・サイイド・モジュタバ

・ホセイニ・ハメネイの場合、その答えと論拠はまさに同一であると言えるだろう。



新最高指導者の人物像、
アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ハメネイ

シャイフ・アリ・サモジャ、ナイロビ・シーア派ネットワーク会長
カミス・モハメド



概要 本覚書は、イランの政治舞台においてより重要な役割を担うことになった、イランの新最高指導者アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイのプロフィールをまとめたものである。 アメリカ合衆国は、アヤトラ・サイイド・アリ・ハメネイを排除することでイランに政権交代をもたらせると考えていたが、彼らの予想に反して、別のハメネイが権力の座に就いた。アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの経歴は、個人的な謙虚さとイデオロギー的な妥協のなさを併せ持つ指導者という、二重のアイデンティティを際立たせている。

指導力の主要な柱

• 謙虚さと質素さ：政治エリート層の多くの人物とは異なり、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ハメネイは「質素な生活様式」を特徴としている。報道によると、彼は意図的に贅沢や個人の富の蓄積を避け、質素な生活を送っているという。

•

• 国民との親近感：彼の正当性の中心的な要素は、国民との交流のしやすさにある。堅苦しい官僚的な障壁の背後で活動するのではなく、人間的なつながりを維持し、イラン国民と直接関わることで、彼は社会的に存在感を示しつつ、精神的にも国民のニーズに寄り添う指導者として位置づけられている。

•

• イデオロギーの連続性と「抵抗」：彼の指導力は、アヤトラ・ルーホッラー・ホメイニーとアヤトラ・サイイド・アリー・ハメネイによって確立された革命の道の直接的な継承として位置づけられている。このイデオロギーの核心は**「抵抗の原則」**であり、その焦点は以下の通りである：

○ 外部からの圧力や支配に対して断固として立ち向かうこと。

○ 国家主権と独立を最優先すること。

○ 政治的抵抗を、不正義に対する道徳的かつ宗教的義務として位置づけること。

○

戦略的意味合い アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイのプロフィールは、「民衆の男」という典型像と「国家の断固たる擁護者」という像を融合させたものである。現在の地政学的状況において、この位置づけは、国際的な緊張に直面しても、個人的に親しみやすく、かつイデオロギー的に揺るぎない指導者を提示することで、国内の忠誠心を強化する役割を果たしている。

戦略的・国際的展望

アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの指導スタイルは、以下を重視している：

• 国家主権の維持

• 外国の影響力への抵抗

• 政治的行動と宗教的・イデオロギー的価値観との整合

さらに、従来の枠組みを超えた国際的なパートナーシップの拡大がますます重視されている。こうした文脈において

、アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイ師は、戦略的な貿易パートナーとして**アフリカ**との関係を強化する用意があることを示していると見なされている。





これには以下が含まれます：

• 経済協力および二国間貿易
• 相互尊重と不干渉に基づくパートナーシップの構築
• 文化、エネルギー、インフラ、農業、技術の各分野における機会の模索

このような取り組みは、経済同盟の多様化と南南協力の促進という、より広範な戦略を反映している。

結論 アヤトラ・サイイド・モジュタバ・ホセイニ・ハメネイの指導者像は、個人的な謙虚さとイデオロギー的な確固たる姿勢を兼ね備えています。彼は、国民に親しみやすい一方で、不正や抑圧に対しては断固として立ち向かう指導者です。

この二重の側面——気取らない人柄と確固たる信念——こそが、彼の指導者像の基盤を成している。



殉教した最高指導者に敬意を表して、ケニアの著名な芸術家が描いた絵画

これは、ケニアのモンバサ出身の著名な芸術家、ズーバー・バクラニによる作品である。彼は、ケニアの歴史や文化を描いた写実的な作品や、ウフル・ケニヤッタ氏やウィリアム・ルト氏といったケニアの要人の肖像画を手掛けることで、東アフリカで広く知られている。

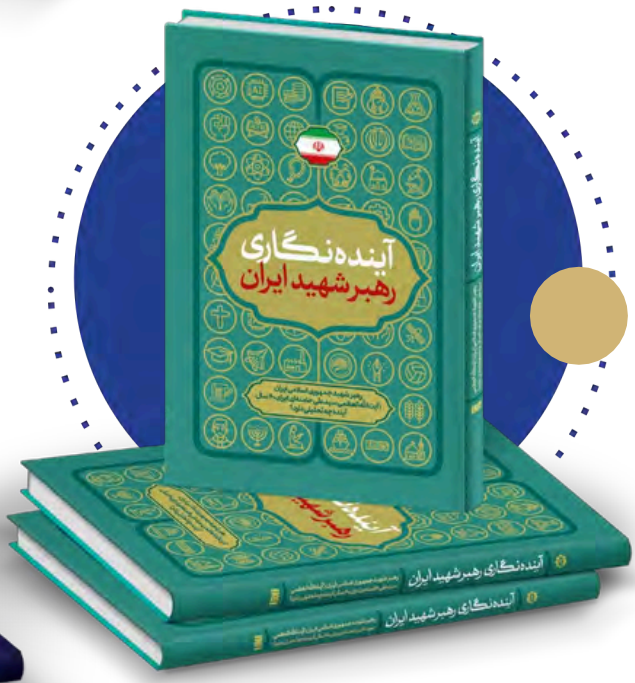
ECHO

最新刊行物



未来への
展望
イスラム共和国
の
殉教した指導者






خیابان باما تلاویو